

## さよなら原発3・10関西2万人行動集会開催！

3月10日、中之島公園・女神像前広場（大阪市役所前）において、さよなら原発3・10関西2万人行動集会が開催されました。私たち修繕分会は、関西地本、各分会、JR西労、JR貨物労組の仲間と共に参加してきました。当日は、集会が始めると同時に雨が降り始め、雨と風で、とても寒い中での集会となりました。集会終了後、難波まで「原発再稼働反対！全ての原発を廃炉しろ！」と訴えながらデモ行進を行ってきました。



## 原発再稼働反対 全ての原発を廃炉への声をさらに強めよう！

あの突然の巨大地震と津波、それに伴う福島第一原発の重大事故から2年になります。私たちは犠牲になられた2万人にもものぼる方々に深い哀悼の意を表します。

福島原発事故は2年経っても収束していません。そのために原因は未だに解明できていません。まき散らされた高い濃度の放射能汚染のために故郷に帰れず、今も16万人を超える人々が避難生活を強いられ、400万人にもものぼる人々が「放射線管理地区」レベルの汚染地で放射能と向き合う生活を強いられています。事故の収束のために1日3,000人もの作業員がずさんな放射能管理のもと、被爆労働を強いられています。廃炉への果てしなき茨の道が続きます。もし、大きな余震があれば大事故は避けられません。

この途方もなく大きな、取り返しのつかない犠牲と困難を前にしても、昨年夏、野田政権は電力不足を口実に、暫定基準で大飯原発を再稼働させました。しかし福島原発事故を徹底して解明することなしに安全基準はあり得ません。核燃料サイクルもすでに破綻しており、「もんじゅ」は廃炉、六ヶ所村再処理工場は閉鎖しかありません。政権交代後、自民党政府・電力業界は「安全が確認された原発は再稼働する」と、まるで福島原発事故などなかったかのように、原発の再稼働に向けた巻き返しを強めています。全く福島原発事故の教訓に学ぼうとしていません。

既に各原発の敷地内には膨大な量の核のゴミが貯まり続け、満杯近くになっています。もうこれ以上、将来の世代に核のゴミを押し付けることはできません。二度と福島事故を繰り返してはなりません。原発再稼働反対、全ての原発を廃炉への声をさらに強めていきましょう。